

留学生らがイタイタイ病について学びました。

5月15日（日）・16日（月）に富山市で先進7カ国（G7）環境大臣会合が開催されることで、世界から富山に注目が集まるこの機会を捉えて、外国の方にもっとイタイタイ病のことを知っていただくために、4月27日（水）に富山県市町村会館において、『留学生のためのイタイタイ病講座』を開催いたしました。

講座では、鏡森館長が「富山のイタイタイ病の歴史」と題し、病名の由来や症状について英語による講演を行った後、イタイタイ病対策協議会副会長で資料館の語り部でもある高木良信氏に、イタイタイ病患者であった母親の様子や副会長として被害住民と共に裁判を闘ってこられた当時の状況等について、英語の通訳を介し語っていただきました。

言葉の違いはありますが、イタイタイ病患者や家族の苦しみ、そしてその苦難を克服してきた過程は、お集まりいただいた約40人の留学生らにもしっかりと伝わっているようでした。

公害はどこの国でも起こりうることから、今後もこのようなイタイタイ病の教訓を海外にも伝える取り組みを企画していきたいと考えております。



鏡森館長による講演



高木良信氏による講話

春の特別企画展『イタイタイ病弁護団の軌跡』を開催しました。

4月26日（火）から5月5日（木・祝日）まで、春の特別企画展として『イタイタイ病弁護団の軌跡』を開催しました。

今回で3回目となる企画展では、イタイタイ病裁判勝訴に向けて被害住民と共に闘ってきた弁護団長の正力喜之助氏を中心としたイタイタイ病弁護団の活動の足跡を写真パネルの展示や対談、講演で振り返りました。

写真パネル展では、昭和43年3月に富山地方裁判所に提訴してから昭和47年8月に勝訴するまでの弁護団の活動の様子を52枚の写真パネルで紹介しました。また、会場には正力氏が勝訴を祝って弁護団の中でも特に貢献のあった弁護士に贈った銀杯も展示され、見学者の興味を引いていました。

開館記念日である4月29日（金・祝日）には、『イタイイタイ病弁護団の活動を振り返って』と題し、イタイイタイ病弁護団団長の朝倉正幸氏と元イタイイタイ病弁護団の松波淳一氏による対談が行われ、昭和43年の弁護団結成時の状況や裁判の歴史等についてお話しいただきました。

対談では、原因企業側から正力氏に対し被害住民側の弁護をやめるよう要請があったものの（正力氏が）拒否されたことや、裁判にあたり、なぜ弁護団と被害住民が一体となって巨大企業と闘い勝訴できたのかなどエピソードを交えながら当時の活動を振り返っておられ、お集まりいただいた約60人の参加者は真剣に聞き入っておられました。

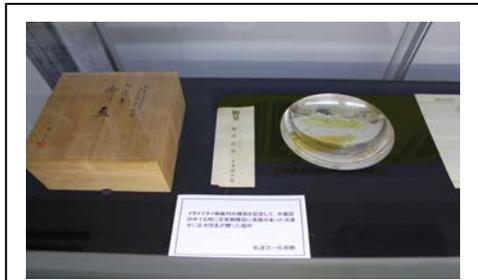
5月3日（火・祝日）には、元NHK富山放送局プロデューサーの奥田一重氏に『イタイイタイ病と公害報道』と題し講演をいただきました。奥田氏が制作した番組映像とともに、イタイイタイ病の裁判当時の状況をイタイイタイ病対策協議会会長（当時）の小松義久氏や弁護団との思い出などにも触れながら語っていただきました。

このように、写真パネル展や関係者の対談、講演によるイタイイタイ病弁護団の活動の紹介を通して、被害者の救済や環境被害の克服が多くの先人の努力の上にあることをあらためて確認し、今後二度と悲惨な公害を起こしてはいけないという思いを会場の皆様とともに強くいたしました。

資料館では、今後もイタイイタイ病の教訓をしっかりと後世に伝えていくために、工夫をこらした企画展を開催していきたいと考えております。



写真パネルの展示



正力喜之助氏が弁護団に贈った銀杯



朝倉正幸氏と松波淳一氏による対談



奥田一重氏による講演